

## ——「ローカルベンチャースクール」の特徴は？

最大の特徴は、「なぜ起業するのか」という問いに真剣に向き合うことです。

多くの事業立ち上げ経験をもつ経営者や、起業家支援、金融の専門家がメンターとして伴走し、対話を通じて事業のブラッシュアップを行います。

起業は人生の大きな決断だからこそ、表面的なアイデア整理にとどまらず、参加者自身が「本当にやりたいこと」を見つめ直し、自分の中にある答えを引き出すことを大切にしています。

## ——町外の人しか参加できないの？

いいえ。これまで町内の方も参加してきました。

ローカルベンチャースクールは、町外から錦江町へ移住し、起業を目指す方に注目されていましたが、町内で新しい事業や活動に挑戦したい方にも参加いただいています。

なお、町内参加者の場合、地域おこし協力隊制度の活用はできませんが、事業づくりに役立つ各種セミナーや学びの機会を通じた支援を行ってきました。

町民の皆さんの身近な気づきや想いも、ローカルベンチャーの大切な出発点です。

## ——本町ならではのサポート体制は？

行政・事業者・町民が一体となり、挑戦を「一人にしない」伴走型の支援を行っています。

役場職員とともに株式会社エーゼログループが、事業の構想段階から実践までを継続して支援します。現場をよく知る人との対話やフィールドワークを重ねながら、錦江町ならではの資源や課題に対応する事業づくりを進められます。

株式会社エーゼログループは、岡山県西粟倉村や北海道厚真町でも起業支援プログラムを実施してきた実績があり、令和5年より町内に支社を構えています。

## ——応援することで、どんなつながりが生まれるの？

応援することは、特別な役割を担うことではありません。

人を紹介する、場所を教える、話を聞く——

そんな日常の関わりを通じて、人と人との新しいつながりが生まれていきます。

地域おこし協力隊や挑戦する人にとって、町民の皆さんとのつながりは、事業を進めるうえで欠かせない支えです。一方で、関わる側にとっても、新しい視点に触れたり、町の魅力を再発見したりするきっかけになります。



地域の課題をチャンスに変え、新しい仕事や活動を生み出す人材を育てる「ローカルベンチャースクール」。錦江町では、挑戦する一人ひとりの想いが、町の未来を動かす力になると考えています。学びと実践を通じて、地域から新たな挑戦が生まれ始めています。

スクールに焦点を当て、その内容やねらい、そこから生まれつつある挑戦の姿を紹介します。ローカルベンチャースクールは、特別な人だけの取組ではありません。地域の資源や日々の暮らしの中にある「気づき」や「困りごと」こそが、新たな挑戦の出発点になります。

応援する、関わる、話を聞いてみる——そんな小さな一歩が、町の未来を動かす力になります。挑戦が生まれ続ける錦江町を、みんなでつくっていきましょう。

また、町内外に向けた情報発信やイベントの開催を通じて、錦江町と関わりながら挑戦する「共創人口」の獲得にも取り組んでいます。さらに、町内の中高生を対象とした起業家育成プログラムを実施し、次世代の挑戦を後押ししてきました。

こうした取組の一環として、町外から錦江町を舞台に起業や事業づくりに挑戦したい人を支援する「ローカルベンチャースクール」を実施しています。

本事業では、町内事業者の新規事業や規模拡大に向けた設計・実行支援をはじめ、企業や研究機関、起業家など町内外の多様な関係者とともに、ビジネスモデルや社会課題の解決策を考える共創型社会への転換を目指した研修を実施しています。

町では、こうした地域資源と課題を起点に、地域内外の人材が主体となって持続可能な事業を創出し、挑戦が生まれ続ける地域経済と人材循環の仕組みを構築することを目的に、令和5年度から「重点ベンチャー支援事業」に取り組んできました。

国では、こうした地域資源と課題を起点に、地域内外の人口が主体となって持続可能な事業を創出し、挑戦が生まれ続ける地域経済と人材循環の仕組みを構築することを目的に、令和5年度から「重点ベンチャー支援事業」に取り組んできました。

人口減少や産業の担い手不足など、全国の多くの地域と同様に、錦江町もさまざまな課題に直面しています。一方で、豊かな自然や一次産業、地域に根差した人のつながりなど、将来につながる資源も数多くあります。



採択後

最終選考会

1次選考合宿

事前研修(オンライン)

エントリー・書類選考

**4月〆移住・地域おこし協力隊として着任**  
担当となる役場職員が、毎月の面談や、地域との連携支援を実施。ローカルベンチャースクールのメンターによる研修・メンタリングを通じて、事業の成長を後押しします。

**2月中旬**  
メンターからのフィードバックを踏まえ、最終選考会までの1ヶ月間、事業プランをブラッシュアップ。ブラッシュアップした事業プランを元に最終プレゼンテーションを実施。審査の上、当日中に採択者を決定。



**1月中旬**  
メンターとの対話を通じて、「なぜ起業するのか」「何を実現したいのか」をことごとく突き詰める合宿。町内事業者や役場職員とのヒアリングを通じて、錦江町を拠点にすることで拓ける可能性を考える時間も設定。最終日には事業プレゼンテーションを行い最終選考会に進む参加者を決定します。

**1月上旬**  
自分の内側にある動機を見つめ直し、「なぜこの挑戦を選ぶのか」「どんな未来を描くのか」を言語化するオンライン研修を実施。基本的な事業計画の考え方や共感を呼ぶプレゼンテーションを組み立てるヒントを学び、一次選考合宿での発表に弾みをつける準備を整えます。

**1月上旬締切**  
審査用「事業プランフォーム」をもとに書類選考を行います。



Close-up

採択後、地域おこし協力隊として着任

令和6年度のローカルベンチャースクール最終選考会で採択された山田有夏さん(写真右)と杉山知枝さん(写真左)は、錦江町へ移住し、今年度から「錦江町地域おこし協力隊」として着任しています。  
着任後、国からの特別交付税を財源とした報償費や活動費などの支援を受けながら、事業づくりに取り組めます。  
生活や活動の基盤を支えられた環境の中で、地域と関わりながら試行錯誤を重ね、実現したい事業の立案や具体化に向けて一歩ずつ挑戦を進めています。現在のお二人の活動の様子を紹介します。



interview ローカルベンチャースクールから、錦江町地域おこし協力隊へ。二人の「現在」は。

——どんな活動をしていますか？

私は、錦江町の農家さんでの農業体験を中心としたツアーを企画し、それを必要な団体やグループへ提供するという事を事業化すべく、只今準備中です。今年度はモデルツアーを2回実施しました。

——モデルツアーはどんなことをされたのですか？

1回目は、関西の小中学生5名が参加し、サツマイモの収穫体験をしました。2回目は、外国人と県内外の日本人7名に向け、ゴボウや大根の収穫体験や照葉樹の森でのトレッキングなどを行いました。どちらのツアーも参加者からの評判が良く、全員が「もう1回、錦江町に来たい」と話していました。ゴボウの収穫は泥だらけになりながらも、みんな夢中でしたよ。

——今後の活動は？

今回はモデルツアーだったため、私の知り合いを通じて参加者を集めました。今後は、こういったツアーを必要としている団体やグループを対象に、ツアーパッケージを提供していきたいと考えています。県外の学生やインバウンドにも販売していきたいです。



杉山 知枝 さん

——どんな活動をしていますか？

私は「町で暮らす人々の生きた証を映像で残す」ことを理念とし、町内の様々なところへ出向き、動画撮影を行っています。撮影した動画を編集してSNSへ投稿したり、『ふるさとCM大賞』へ応募したりしました。『ふるさとCM大賞』は、企画から撮影、編集までを1人でこなすのは大変でしたが、出演してくれたお二方の演技が素晴らしく、見事『演技賞』をいただくことができました。

——錦江町での生活はどうか？

錦江町の方は「なんでこの町に来たの？なんもないのに」とよくおっしゃいますが、自然や人の温かさ、人とのつながりなど、素晴らしいものがたくさんある町だと思います。会えば声をかけてくださる方や、様々なイベントに誘ってくださる方など、そういう距離感が私は好きです。

——今後の活動は？

『終活スナック』を開くことが目標。自分のお葬式や死について気軽に語ったり考えたりする場を作っていきたいと思っています。お葬式で流す生前のメッセージなどの撮影も行っていけたらいいなと考えています。



山田 有夏 さん

Close-up

1次選考合宿

活性化センター神川にて、2泊3日で行われる1次選考合宿。過去2回に計15名が参加しています。(令和5年度7名、令和6年度8名)  
審査対象外とはなりますが、もちろん、町内の事業者さんも参加可能。  
参加者たちは、「メンター」と呼ばれる役場職員や経営者、金融機関の方々と対話を重ね、自分のやりたいことを突き詰めていきます。やりたいことを見つめ直し、自分の中にある答えを引き出すきっかけを得ることができます。



interview 昨年度、ローカルベンチャースクールへ参加された町内事業者さんの「声」。



RE.ASLEEP  
桑原 さおり さん

私は骨盤矯正やリンパマッサージのサロンを経営しています。1年間、自分だけで開業の準備をしていましたが、「これでもいいのかな」と不安に思うこともありました。そんな時、ローカルベンチャースクールのことを知り、参加を決意しました。  
メンターとの対話を通して、集客など、目先のことがばかりを考えて焦っていましたが、5年10年先のことを考えて動けばいいのだと考えさせられました。  
また、前向きな他の参加者との出会いも刺激になりました。  
町内で自営業をされている方は、ぜひ、参加を検討してみてください。様々な気づきや情報を吸収できますよ。  
今後は、お客さんが非日常的な時間を過ごせるような空間作りを意識し、お母さんたちが育児から少し離れることができるような場所、障がいを持った子どもやその家族が集えるような場所を作っていきたいと思っています。



NPO 法人たがやす  
山田 みなみ さん

私は、ゲストハウスの運営を中心に、認知症カフェや図書館、スマホ教室、協力隊のサポート、フリースクール等の事業を行っています。  
ローカルベンチャースクールへの参加のきっかけは、自分のやりたいことの軸が何なのか、これからのことをしっかり考えたいと思ったからです。  
実際に参加してみて、何のために事業をしているのか芯を持つことができました。それぞれがお互いを本気で応援し合える温かい場でしたので、この経験が私のお守りようになっていきます。  
今後は、関わる人たちがそれぞれが生かしかえる関係性を、様々な事業を通してつくっていききたいです。

お問い合わせ

錦江町役場産業振興課  
☎ 0994-22-3034